

## 大野正夫： ウクライナ問題について私感

佐々木さんの投稿を興味深く拝読しました。私は満洲に生まれで、かすかな記憶は、ソ連兵がマンドリン銃を抱えた姿です。奉天で6歳の時でした。それだけが理由ではないのですが、ウクライナのニュースは、よく視聴してきました。プーチンの軍事作戦はルール違反だと思いますが、彼の考えだけでなく、彼を取り巻くグループの立案で、多くのロシア人の歴史感から生じた「戦争」と思います。

ロシア人には、ウクライナは弱い属国という意識があると思います。この戦いの抵抗は想定外と思っているでしょう。この戦争は隣国への侵略戦争ですが、日本の中国事変（支那事変）と酷似しております。日本人は中国への侵攻は戦争とは言いませんでした。また中国人を弱いとみていました。その結果、満洲の悲劇です。

また、この戦いは民主主義と権威主義の戦いとみております。ウクラナの戦いは、中国の動き次第だと思います。中国はロシアが負けることをさせないでしょう。予測できない戦いです。ゼレンスキーは、ウクライナ人の心をよく捉えています。舞台から観客を見つめて動いていると言えます。この戦いは、彼一人の指導力でなく西側諸国やウクライナ人が、ロシア権威主義への戦いと思っております。ただ、早く幕引きとなることは望んでいます。